令和５年度 第３回 三原市総合教育会議 議事録

日時：令和６年１月１８日（木）１０時～
場所：三原市役所４階　第１応接室

１　開会

◆市長
　定刻でございますので、ただいまから令和５年度第３回の三原市総合教育会議を開催いたします。
　本会議は、「三原市総合教育会議設置要綱」第６条の規定により、原則として公開となりますので、あらかじめご了解ください。

◆教育長
　はい。お願いします。

◆市長
　では、そのようにさせていただきます。
　さて、本日は、次第のとおり、「学力に関する現状とＧＩＧＡスクール」を調整事項として、ご協議をいただきたいと思います。
　委員の皆様からは、闊達なご意見をいただき、本日の会議を実りあるものにしたいと考えておりますので、ご協力の程よろしくお願いいたします。

◇全員
　よろしくお願いします。

２(1) 学力に関する現状とＧＩＧＡスクールについて

◆市長
　それでは、協議に入ります。
　前回の総合教育会議において、教育長から「授業改善の大切なポイント」として「振り返り」というワードが示されました。
　この会においても、「振り返り」は大切であることをもう一度確認しようと思います。そこで、前回提示していただいた調査問題を再度確認することが互いの理解を深めることに繋がると考えておりますが、いかがでしょうか。

　（「よろしいと思います。」などの声）

　学力とＧＩＧＡスクールについては、これまでも全国学力・学習状況調査の調査問題を手がかりに協議を進めさせて頂くことが多くありました。
　今年度と昨年度の調査問題の用意を、事務局にお願いしております。まず今回は、教育委員会の担当課長から、前回提示の調査問題に関しての説明をいただきたいと思います。

○教育委員会説明員（学校教育課長）
　それでは、前回も提示した「小学校６年生」の国語の問題について、説明します。資料 11 をご覧ください。

⇒＜提示＞「令和５年度」小学校６年生の国語

特徴的な調査問題として小学校国語 13 ページから 15 ページを御確認いただきたいと思います。
文部科学省が発表した解説資料によりますと、この問題は、「目的に応じて必要な情報を見つけたり、情報を関係付けて整理したりして、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。」といった趣旨で出題されたものです。
13 ページには、資料の中の重要な言葉を、四角や丸で囲む、線でつなぐ、整理するという学習指導が示されています。
15 ページには、資料を読み、理解し、80 字以上 100 字以内でまとめることが求められています。

◆市長
説明ありがとうございました。
資料を読み、理解し、まとめることの大切さを浸透させるために、教育長の発案で、今年度、振り返りツール「R80」を導入されました。「R80」について、事務局から、説明をお願いします。

○教育委員会説明員（学校教育課長）
「R80」は、授業の振り返りを２文で構成し、2 文目の頭には接続詞を使用、80 字以内で記述というルールにより、論理的な文章に整理することで、振り返る力、まとめる力、言語化する力が高まるツールです。

◆市長
ありがとうございます。
教育長さんにお聞きします。「R80」導入後の、学校の変化等ありましたら、教えていただけますでしょうか。

◆教育長
今日は「R80」のことが話題になると思っておりましたので、各校の事例をいくつか、持ってまいりました。
最初に、教育委員会が示した「R80」のフォーマットの資料 21 を御覧ください。

⇒＜提示＞R80 振り返りシート（標準）

これを校長会で示しました。教科ごとに、その授業の目当ての記入欄、20 行×4 列の 80 文字の本文欄、メモ欄で構成しておりそれが 1 時間分です。1 枚で 4 時間分書けるようになっています。ページの最下段に接続詞の例を記載しています。
続いて実際に小学生が記載した資料 22 を御覧ください。

⇒＜提示＞R80 振り返りシートＡ小学校 1（小学校１年）

実際に小学校 1 年生の書いたものです。書き手の小学生は、接続詞としては「そして」「それから」という並列の接続詞を利用し、書いています。
また、この学校の特徴的なことは、本文欄に 60、80 という数字を小さく入

れ、児童が文字数を意識しやすいように工夫しています。

◆市長
「R80」導入の意義と、学校の様子はわかりました。
教育委員の皆様から、何か御意見等ありますでしょうか。

◇京楽委員
R80 については、すでに取組を始められていると聞きましたが、学校の反応はいかがでしょうか。

◆市長
事務方からお答え頂けますか。

○教育委員会説明員（学校教育課長）
現在、学校の実態や発達段階に合わせて、すべての学校で取組を始めています。
マスの大きさ、紙かデジタルか、メモ欄の有無等、様式は各校が工夫しています。
１年生は、まだ接続詞を習っていませんが、１文目はみんなで、２文目は一人で書くなど発達段階に合わせて工夫して取り組んでいます。最初は、「何を書いてよいかわからない」「時間内に書ききれない」児童が多く見られましたが、回数を重ねるうちにここまで書けるようになり、子どもたちの意欲も高まっていると報告を受けています。

◇京楽委員
80 字以内で書くことやまた接続詞を使って自分で書くことは、小学校１年生にとっては少しハードルが高いかもしれません。
しかし、これから大きく変化する未来において、このように早い時期から、授業を振り返り、他者とも共有し、自分の考えを整理し、文章に書くこと、つまり論理的に考えて、書き、読み、話せるという力を身につけることはとても重要なことだと思います。

◆市長
ありがとうございます。
ほかに、ご意見などありますでしょうか。

◇田原委員
「R80」は、振り返る力、まとめる力、言語化する力が高まるということでしたが、小学校の１年生に何かの成長はありましたか。

○教育委員会説明員（学校教育課長）
同じ小学校の１年生の直近のものがございますので、資料 23 を御覧ください。

⇒＜提示＞R80 振り返りシートＡ小学校 2(小学校１年その後)

１１月に書いたものです。シートを見ていただくと大きな変化はないように見えますが、「そうしたら」など、子どもたちが自分たちの言葉で文章を書

くようになったり、接続詞のバリエーションが増えたり、短時間で書けるようになったりするなど、２ヵ月程の取組でも、子どもたちに定着してきていると捉えております。

◇田原委員
ありがとうございます。
回数を重ねるごとに学習、授業への振り返りだけでなく、理解できた部分や頑張った部分などが明確になっており、接続詞を使い、自身の言葉で振り返りができるようになっていると感じました。
振り返りを繰り返すことで、得意分野も伸ばし、苦手を克服し、学ぶ大切さを知り、主体的に学ぶ喜びをもっと感じて欲しいと思います。

◆市長
振り返りをするということがすごく良い形で、子供たちの成長に繋がっているというふうに感じました。
先ほど、事務方から、「子どもたちの意欲も高まっていると報告」があったとの発言がありましたが、他の事例をご紹介頂けますか。

○教育委員会説明員（学校教育課長）
他の事例として、まずは、ＩＣＴの活用例をご紹介させていただきます。資料 24 を御覧ください。

⇒＜提示＞R80 振り返りシートＢ小学校(Excel)

ある小学校の６年生の国語の振り返りシートですが、ＩＣＴ端末で入力し、入力した文字数が表示されるよう、工夫をしている学校もあります。

続いて、教員研修の事例について、資料 26 を御覧ください。

⇒＜提示＞R80 振り返りシート教員研修(初任研)

このシートは、この度、12 月に実施した三原市の新規採用の教職員対象の研修で使用した研修の振り返りシートです。教育委員会主催の研修においても、R80 の良さや意義を浸透させるため活用しております。また、学校で実施する様々な研修でも、この R80 を用いて研修の振り返りを行っている学校もあります。

◆市長
学校で、それぞれが工夫を凝らしながら、論理的思考を養う努力をされていることはよく分かりました。
高橋委員さん、「R80」の今後の更なる活用に向けて、何か望まれることはありますか。

◇高橋委員
「Ｒ80」の取組により、論理的な文章に整理し、そのことで振り返る力、まとめる力、言語化する力が高まることが期待されます。すなわち、目標として、子供たちに、論理的思考力を高めるというものです。
この論理的思考力ですが、物事を結論と根拠に分け、この論理的な繋がり

をとらえながら、物事を理解するという力です。
　物事を論理的にとらえながら話すことにより、聞き手にわかりやすく伝えることが期待されます。
　問題解決の際にも、原因特定や解決策の立案に効果的なプロセスです。
　このように、「Ｒ80」の取組をきっかけに、子供たちの論理的思考力を高め、多方面にその力を発揮していって欲しいというふうに思っております。

◆市長
　ありがとうございました。
　小野委員さん、振り返る力、まとめる力、言語化する力を高めていくことに関して、何かお考えがあればお願いします。

◇小野委員
　先ほど高橋委員からありましたように、全くその通りだと思います。
　大学で卒業論文をみんな書くようになっていますが、卒業論文の作成はまさしく問題解決能力が必要になります。課題を決めて、いろいろデータを取って、そのデータを基に、その課題について論理的に説明していく考察の部分が論文の中にはあり、ディスカッションになりますが、まさにこの文章と文章をいろいろと検討しながら、考えながら説明していくという能力が必要になります。まさにこの「R80」で、非常に似通った能力を養えると思います。これは、まさしく問題解決能力の育成に繋がるのではないかと思いました。

◆市長
　ありがとうございました。
　「振り返り」という視点でも「R80」の有用性について考えが共有できたものと思います。
　さて、「振り返り」というキーワードで言えば、各学校で作成されている児童生徒の学力定着に向けての「改善計画シート」。前回の総合教育会議での教育委員会からの説明では、来年度に向けて、このシートの見直しを行っているとのことでした。
　どのような見直しを行ったのか説明をいただけますか。

○教育委員会説明員（学校教育課長）
　まず現在、活用している学習分析事業の改善計画シートについて、資料を用意しました。資料 31 を御覧ください。

⇒＜提示＞ 現在活用の R5 学習分析事業 改善計画シート

　これまで約３年間、このシートを活用して取り組んできたところです。学校ごとに綿密に協議のうえ、取組内容と時間軸を詳細に記載し、実行、検証へと改善サイクルを回せるようになったことは成果です。ただし、詳細な記載事項が全教員に浸透していない学校や、取組が形骸化している状況が生まれてきています。そこで、今一度、何のためにシートを作成するのかといった初心に立ち返り、改訂を行ったところです。
　改訂後のシートも用意しましたので、資料 32 を御覧ください。

⇒＜提示＞　改訂した R6 学習分析事業 課題改善シート

改善のポイントは２点です。
１点目は、「経年変化の意識化」です。前年度と当該年度のものを１シートで見られるよう改善しました。２年分を並記することで、前年度の課題も常に意識し、改善状況を確認することができます。
２点目は、「端的な記載」です。
課題の要因となる「身につけられていない力」とその力を確実に身につけさせるための「具体的取組」を明確にすることを重視し、「R80」、「重要語句への線引き」、等、全教員が全授業での継続的な取組が可能なものをいくつか示し、その中から、学校ごとに必要な上位３点の「端的な記載」に絞って示すようにし、身につけさせたい力をしっかりと絞って進めてまいりたいと思っております。
以上のことについて、御議論頂ければ幸いです。

◆市長
改訂によって、課題の明確化と取組の重点化が図られたことはわかりました。
教育委員の皆様から、何か御意見等ございますか。

◇田原委員
改定によって、児童生徒の学力定着にどう効果あるのか、教えていただけますか。

○教育委員会説明員（学校教育課長）
学力調査の目的は、単に児童生徒の学力や学習状況を把握するだけでなく、教師が行った学習指導の成果と課題を検証し、改善に役立てることです。先ほど、「課題の明確化と取組の重点化」をしていくと申し上げましたが、課題が抽象的であれば取組も焦点化できません。課題にそって焦点化した取組を継続的に行うことが学力定着につながると考えています。

◆市長
はい。では、小野委員にお伺いいたします。
大学では、このシートに類似するようなものがございますか。また、あってもなくても、いずれにしても、改訂について、何か御意見をいただけますか。

◇小野委員
全く一緒のものはないですが、大学の方ではエクセルシートを使用して、身につけさせたい力として、年度の目標を 100 項目ぐらい示してあります。
その次に、年度計画として具体的に実施する取組をその横の右に記載し、さらに、その隣に、具体的に実施したことを、年度の後半ぐらいに、各部署で記載します。
そして、それを見て、各部署で自己評価をします。5 段階評価ぐらいで、3 を真ん中として、自分で記載する。そして、その隣に。次年度何をするかが、一覧でわかるように、100 項目を記載するものがあります。
そうすると、第三者が見ても、一体どういうふうな取組をして、どんな結果になっているのかが、すべてわかることになっていますので、この今回提示いただいた資料等も共通するところがあると思います。経年変化がわかるという意味で。そういうことを実施していますので、少し参考にしていただけ

ればと思います。

◆市長
ご意見、ありがとうございます。
何か事務方からございますか。

○教育委員会説明員（学校教育課長）
今、小野委員のご説明で、大学でも同じようなシートがあると聴き、しかも共通性もあるということなので、我々もこのシートに少し自信を持ちました。これをしっかりと学校で活用できるように進めて参りたいと思います。
ありがとうございます。
再度、改善前のシートを御覧いただきたいので、資料31に戻っていただきますでしょうか。

⇒＜提示＞ 現在活用のR5学習分析事業 改善計画シート

右下に、「５　次年度学力調査の目標値」という項目があります。
学校での学習の成果目標として、数値を記載する欄です。
しかし、学力調査は、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ること。学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てること。そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立すること。そういったことのためのもので、年ごとの平均点の上下にこだわるものではありません。
もう一度、改訂後のシートの資料32を御覧ください。

⇒＜提示＞ 改訂したR6学習分析事業 課題改善シート

次年度の学力調査の目標値という項目がありますが、学校での学習の成果目標として、これまで数値を記載するということをしておりました。
しかし、学力調査は、児童生徒の学力や学習状況を把握分析し、教育施策の成果と課題を検証して、その改善を図ること。学校における児童生徒への教育指導の充実や、学習状況の改善等に役立てること。そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立すること。
そういったことのためのもので、年ごとに平均点を上げる、下げると、いうようなところにこだわっているものではございません。
そういった意味で、学力を上げることは当然の目標でありますが、先ほど申し上げた学力調査の趣旨や、最も大切なことである教師が課題を掴み、課題を解決するための取組を確実に行い、シートを活用し課題を改善するために、「次年度学力調査の目標値」の欄については、削除し、重点取組の経年比較がわかるような様式に改めました。
続いて、同じ資料32の２ページの学力補充シートをご覧ください。

⇒＜提示＞ 改訂したR6学習分析事業 学力補充シート

第２回総合教育会議でご紹介した学力補充シートと、先程お示しした課題改善シートを一体的に活用していきます。これにより、授業における取組と課題分析をもとに、ドリル学習などの取組と両輪で進め、「いつ」「誰が」「何を」「どのように」行うのかを明確にして、学力補充を計画的に進めてまいり

たいと考えております。

◆市長
ありがとうございます。
この会、課題改善シートのですね、学力補充シートを一体的に運用していくということで理解をいたしました。
ここで教育委員の皆様から、ご意見をいただきたいと思いますがいかがでしょうか。

◇京楽委員
学力補充という言葉が出てきましたが、学力補充とは「いつ」「誰が」というふうに、具体的に、イメージを持てるように、教えてください。

○教育委員会説明員（学校教育課長）
学力補充については、学校毎に1校時開始前の10分や掃除終了後の15分等の帯時間を確保し実施しております。これまでの課題として、時間は確保されているものの、担任や教科担当任せになり、学校としての取組になり得ていないという課題もありました。そのため、課題にそったプリントを用意するのは教務主任、全体指導をするのは担任、基礎学力が定着していない児童には、専科教員が支援する等、役割分担をしながら、協働して実施するよう、指示しているところです。各学校の状況に応じて、みんなで工夫しながら取り組むところがポイントだと思っています。

◇京楽委員
児童生徒のために、細かな指導となるように、また、担任・副担任の負担が増えないように、複数の教員で支援されることが重要だと思います。
児童生徒にとって大切な基礎学力の定着に、専門教員も配属されるなど、学力補充に学校全体で協働して取り組んでいかなければ、これからの課題だと思います。

◆市長
ありがとうございます。
高橋委員さんに、学力補充についてのご見解をお伺いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

◇高橋委員
学力補充についてですが、まず、そもそもの目標として何を子供たちに身につけさせるかということですが、以前のこの会議で申し上げましたが、学校教育法第30条第2項で、生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力、その他の能力を育み、主体的に学習に取り組む態度を養うことに特に意を用いなければならないというふうに規定されています。
こういった力を育むために、各教科等の指導において、基礎的基本的な知識及び技能の確実な習得に留意しつつ、子供たちの興味関心を生かした学習を展開することが大切であると思っております。
子供たちの興味関心を活かすということは、子供たちの学習意欲を喚起する上で有効であり、また、それは自主的自発的な学習を促すことに繋がると

考えられるからです。
　このような取組を通して、子供たちは、学習の目的を自覚し、学習における進歩の状況を意識し、進んで学習しようとする態度が育っていくものと思っております。そして、子供たちは、主体的に自分たちの生活体験や、興味関心を基に、課題を見つけ、自分なりに方法を選択して、解決に取り組むことができるようになると思います。
　その際のツールとしてＩＣＴ端末が有効に機能するのは、申し上げるまでもないと思っております。

◆市長
　ありがとうございます。
　最後に、学力の定着について、教育長から今後の抱負を含めてまとめをいただければと思います。

◆教育長
　はい、これまで説明してきたこと、議論をしてきたことを踏まえまして、まずが子供たちの学力を向上させるには、授業の充実と基礎基本の定着だろうと思います。
　授業の充実については、「Ｒ80」を活用した振り返り、そこから逆算式に授業を作り、確実な授業の定着を図る。そして、授業の中の学びを振り返って次につなげていく、さらに大きくくくっていくなどの「Ｒ80」の質は高めていくことが１つ重要なことだろうと思います。
　それから、基礎基本というのは、簡単に言うと読み書き計算だと思いますが、これを学力全国学力調査やＮＲＴの分析をもとに、先ほどお示しした、計画表や分析シートなどを用いて、学校全体として、単に担任や教科担当だけが取り組むではなくて、学校全体として、ちょっとここが弱いな、ここをもっと充実させたいな、さらにそこ伸ばしたいなということであれば学校全体として計画的に、意図的に進めていくことが、本市の児童生徒の学力を向上させることに繋がると思っております。
　先ほどご議論いただいたことなどを踏まえまして、さらに三原市の学校の教育の、さらには、児童生徒の学力の向上に努めて参りたいと考えております。

◆市長
　ありがとうございます。
　かけ算ができないと、割り算、或いは分数の計算ができないように、基礎学力の定着がなければ、なかなかその応用というところも理解ができないと思います。
　そうしたところの、ステップバイステップの取組が必要かと思いますので、先生方には、学力の定着に向けて、きめ細かい指導をお願いしたいと思います。

　続いてＧＩＧＡスクールについて、お伺いしたいと思います。
　第２回会議において、児童生徒のＩＣＴ端末を活用させている授業の回数は伸びが見られるという報告を受けましたけれども、現在の三原市の活用状況についてご報告をお願いします。

○教育委員会説明員（学校教育課）

11月に本年度２回目のＩＣＴ端末の活用状況のアンケートを行いましたので、その結果を基に御説明させていただきます。資料41を御覧ください。

⇒＜提示＞ R5.11 ＩＣＴ端末の活用状況

教員がＩＣＴ端末を利用している授業の回数を御覧ください。
昨年度の結果と比較し、大きく小学校、中学校とも伸びております。また、児童生徒にＩＣＴ端末を活用させている授業の回数を御覧ください。こちらも同様に伸びがみられます。
キーボードで文字を打つ速さを御覧ください。小学生、中学生ともに着実に伸びてきております。
学校での活用について、徐々に活用が進んでおります。しかし、児童生徒が家庭でＩＣＴ機器を利用している回数を御覧ください。ほとんど利用していない児童生徒が、小学校では約２割から３割中学校では約６割となっており、家庭での活用について課題がございます。

◆市長
ありがとうございます。
論点を絞りながら整理していきます。まずは、児童生徒にＩＣＴ端末を活用させている授業の回数、前回から伸びているということですが、京楽委員さん、どのように受け止められていますか。

◇京楽委員
まず、1年間、先生方が継続してＩＣＴ端末を活用されてきた日々の取組の結果として、子供たちが先生の指示がなくても、子供たちが自ら考え、選択して取り組めるようになったことで、活用回数が伸びてきていると思います。
ＩＣＴが学習の道具として個別最適化されてきているのではないかと思います。

◆市長
ありがとうございます。
同じく、この児童生徒にＩＣＴ端末を確保している授業の回数が前回から伸びているということについて、高橋委員の受け止めをお願いします。

◇高橋委員
ＩＣＴ端末を活用させている回数が大きく伸びているという報告でしたが、私は実際に学校の公開研究会を見に行かせていただきました。
そこでは、授業で子供たちがどのようにタブレットに向かい合っているかということを見ましたが、ごく自然に子どもたちは学習活動の中で、タブレットを自在に使いこなし、班活動の中で自分の意見を、そのタブレットを使いながら説明し、生徒同士の意見交換を行っていると言う姿を、幾度となく見ました。
その光景を見て、子供たちのタブレットを使いこなす習熟の速さに、大変驚きまして、頼もしく感じました。今までのそういった、取組を踏まえまして、やはり早期から、子供たちはＩＣＴ端末に触れる大切さを実感したところです。

◆市長

事務局に確認をしたいと思いますが、児童生徒にＩＣＴ端末を活用する、授業の時間、回数を増やしていくためには、組織的にどのような取組をしているのか、そしてどのような取組をしようとしているのかについて、お示しください。

○教育委員会説明員（学校教育課長）
学校では、「教える、与える学び」から脱却し、「すべての子供が自ら考え行動する学び」となるよう、授業だけでなく、教育活動全体での学びを構成しています。
今年度からは、さらに学びの質を高めるため、「子供同士の学び合い」にフォーカスして取組を充実させており、その授業の中で、必ずＩＣＴ機器を効果的に活用する場面を設定し、授業改善に取り組んでおります。
資料 42 で御説明いたしますので、御覧ください。

⇒＜提示＞ 三原 GIGA レボリューション（サードステージ）

このシートは、各学校に周知しているシートです。
学校の情報教育の担当者や校長に、あらゆる機会で提示しているものですが、先ほど申しましたように、すべての児童生徒がＩＣＴ端末の活用場面や活用方法をみずから考え、選択し、活用できる。ここを目標にやっているところです。
ピックアップして見ていただきたいのが、表の 2 段目になる具体的な子供の姿を、このように具体的にわかりやすく、イラストを用いて学校に示しています。
左端から見ていただくと、例えば、考えを個人個人が個人思考のときに、ドキュメントやジャムボードで交流する。
そして、交流したもの、子供たちの多様な意見を整理したり分析したりするようなものに活用する。
そして、次の 3 番目になりますが、そして自分たちで何か発表する資料などを共同して作成する。同じシートをみんなで入力することができます。
協働したものを、プレゼンテーションをして、表現する。
そして、授業の最後に、「Ｒ80」などの振り返りでお互いの気づきや学びを共有する。
このように具体的なものを示して取り組んでいるところでございます。

◆市長
ありがとうございました。
ただいまの説明について、小野委員、いかがでしょうか。

◇小野委員
これまでの教育は、教えるもしくは与える学びが中心だったように思いますが、この資料にあるように、「すべての子どもが自ら考えて行動する学び」を目標にして、教育されております。今までの教育は、大量の情報を、正確に覚えて、後になって、それを再現してテストするということで評価をされていたように思います。
今は手元にｉＰｈｏｎｅなどがあって、いろいろことを調べることができるようになったわけですから、大量の情報を保持して持っておくことが、第 1 の条件になってないような時代です。正解のないような社会で生き抜く力と

いうのは、自分で考えていかに行動するかというものが一番重要になってくると思います。
ですから、この教育の方針というのは、まさにこれからの教育の中心になると思います。それを今、時代の流れに乗って三原でもやられているということで、非常に良い方向だろうと思います。

◆市長
このＧＩＧＡスクールの推進は、本市の強みとなりつつあると思っています。
今後さらに一歩前に進んでいくためには、いかにＩＣＴ端末を効果的に授業で活用するか、児童生徒が日常的に活用していくかということが重要だと思います。
子どもたちの学力定着という大きなことをなすには、毎日毎日の小さな努力の積み重ねが大切であると考えます。
今後もＩＣＴ環境の効果的な活用によって、学力の定着が進むよう、引き続き教育委員会として努力を続けていただきますようお願いするとともに、私も必要な支援というものをしっかりと進めていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

（「よろしくお願いします」などの声）

続いて、キーボードで文字を打つ速さについて、小学生中学生ともに伸びているという状況ですが、学校では具体的にどのようなことに取り組んでいますか。

○教育委員会説明員（学校教育課長）
児童生徒は、授業での活動や家庭での宿題でキーボード入力をしているほか、課題が早く終わって時間が余っている場合などに、時間内にどれだけの単語を入力できるか記録していくようなタイピングアプリも利用し、ゲーム感覚で楽しく取り組んでいるようです。

◆市長
ゲーム感覚でタイピング技能を身に付けるアプリは、子供たちにとって取り組みやすいですね。
教育長さん、大学の卒業論文などは、教育長の学生時代は、ワープロでしたか、手書きでしたか。

◆教育長
私は理学部数学科なので、卒業論文は式とかグラフとかを書きましたが、ほぼ手書きです。

◆市長
小野委員に伺いますが、今の大学生はいかがですか。卒業論文や日々のレポートなどは。

◇小野委員
今回、コロナ禍がありまして、一時期大学に入っては駄目だということになったので、授業は遠隔で受けますし、レポートの課題があると、パソコンか

らパソコンに提出する時代なので、もう手で書く時代ではないですね。
どの学生さんも速いと思います。

◆市長
タイピングのこの技能について、文部科学省の方はどのような目標を立てておられるのかについて、教えてください。

○教育委員会説明員（学校教育課長）
令和5年12月20日に開催された第3回デジタル行財政改革会議において、文部科学省が示した「子供たちと教師の力を最大限に引き出すためのデジタルを活用した教育の充実」という資料の抜粋を準備しています。資料44の2ページを御覧ください。

⇒＜提示＞令和5年12月20日デジタル行財政改革会議(第3回)(文部科学省)

2ページ目の教育ＤＸに係るＫＰＩの方向性として、様々な指標が示されています。その中で、②情報活用能力の向上において、キーボードによる日本語入力スキルの向上のＫＰＩは、小学生においては、令和４年度は１分当たり15.8字であるところ令和８年度40字に、中学生は令和４年度23.0字であるところ令和８年度は60字とされています。これが今後の目標となってくると考えています。
因みに、三原市の児童生徒は、先ほどみて頂いたようにかなり高い値を示しております。今後、令和８年度目標値に少しでも早く近づくことができるよう、日々の積み重ねを図っていけるよう、引き続き取り組んでまいります。

◆市長
日々ＩＣＴ端末を含めた環境に慣れ親しむことが重要だと思います。子供たちには、自らの学びの文具、生活の道具として、楽しみながら、触れて、活用してもらいたいと思います。
先ほど紹介のあった「第3回デジタル行財政改革会議」の文部科学省資料については、大変興味深いものですが、まずは、家庭でのＩＣＴ機器の活用についての協議の後、再度、触れさせていただきたいと思います。
では、先ほど事務局から、「これについては課題がある」と話がありました家庭での活用について、田原委員に伺いますが、家庭におけるＩＣＴ端末活用について、御意見をいただけますか。

◇田原委員
夏休みや冬休みなどの長期休暇では、主にドリルパークなどを使って、自分のペースで学習を進めていると思います。また副教材などでは、写真や動画などで課題の提出もしており、Ｃｈｒｏｍｅｂｏｏｋがとても活用されていると思います。
ただ、先ほどのアンケートでも出たとおり、中学生では日々、家庭学習でＣｈｒｏｍｅｂｏｏｋの使用する頻度がちょっと少ないと思っていますが、自分のスマホなどを使って家庭学習で調べていると思います。
しかし、タイピング機能を高めるためにＣｈｒｏｍｅｂｏｏｋをもっと活用するよう、家庭でも声掛けをしていこうと思います。

◆市長
ご意見ありがとうございます。
学校では、家庭での活用についてどのように取り組んでいるんしょうか。

○教育委員会説明員（学校教育課長）
先ほど田原委員さんがおっしゃったように、子どもたちは、宿題にＩＣＴ機器を活用して、ドリル学習などに取り組んでいます。
国語、算数数学、理科、社会、英語の教科について学習し、正解か否かをＡＩが瞬時に判断してくれます。間違った問題を繰り返し復習できるようなシステムになっております。
また、宿題でオンライン上のデジタルホワイトボードに個人の考えを記入しておき、授業における共同学習の予習として活用している学校も見られます。
また、不登校の子どもたちが、自宅で、オンラインで授業を見ることもできるよう、授業をＩＣＴ機器で配信できる環境も整えております。

◆市長
子供の学びの居場所づくりにも繋がるＩＣＴ機器の活用には、無限の可能性があると感じています。
三原市で学んでよかったと思えるような授業、そして、このＧＩＧＡスクールの推進を本市の強みというふうにしていきたいと思っておりますので、ご協力をお願いいたします。

（はい）

高橋委員、お願いします。

◇高橋委員
ＩＣＴ環境の整備は本市の強みとなるものだということは、十分承知をしております。
ＧＩＧＡスクール構想の推進においては、一歩一歩着実に進めて参りたいと考えております。

◆市長
教育長、お願いします。

◆教育長
教育委員会では、本年度重点として、プログラミング教育の推進を掲げておりました。
この取組状況について報告させていただいてもよろしいでしょうか。

◆市長
お願いします。

○教育委員会説明員（学校教育課長）
中学校におけるプログラミング教育の概要について、資料を用意いたしました。資料 46 をご覧ください。

⇒＜提示＞プログラミング教育の取組

今年度本市で力を入れて取り組んでいるのは、今回の学習指導要領で新たに導入された領域で、具体的には、学校紹介のＷｅｂページを、技術科等の授業の中で、生徒が、自分たちの学校の課題を踏まえ、改善を図ってきたホームページを作成しているところでございます。

1ページ、2ページには、現在、各校の進捗状況を示しています。

実施状況ですが、ほとんどの学校が、授業で取り組んでおり、終了しているところでございます。

3ページ目には、大和中学校のホームページ作成の紹介を掲載しています。

そして、この2月16日には、この度、学校が作成したこのウェブページを、生徒がオンラインで発表する場を設定しております。

ぜひ市長さん、教育委員さんにご覧いただければ幸いと思っております。

よろしくお願いいたします。

◆市長

概要説明ありがとうございました。

教育委員の皆様はこのプログラミング教育の必要性についてですね、どのようにお考えでしょうか。高橋委員、いかがでしょうか。

◇高橋委員

プログラミング教育については、小学校では特に情報手段の基本的な操作の習得に関する学習活動及びプログラミングの体験を通して論理的思考力を身につけるための学習活動を、カリキュラムマネジメントにより、各教科等の特性に応じて計画的に実施すること。また、子どもたちが、将来どのような職業につくとしても、時代を超えて普遍的に求められるプログラム的思考、すなわち、自分が意図する一連の活動を実現するために、どのような動きの組み合わせが必要であり、一つ一つの動きに対応した記号をどのように組み合わせて組み合わせたらいいか。また、記号の組み合わせをどのように改善していけば、より意図した活動に近づくのかといったようなことを、論理的に考えていく力ですが、そういった力を育むために、小学校においては、児童がプログラミングを体験しながら、コンピューターに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考力を身につけさせるための学習活動を計画的に実施するとなっております。

このように、論理的な思考力を育む上で、プログラミング教育っていうのは、極めて重要な取組であるというふうに考えております。

◆市長

ありがとうございます。

小野委員は、いかがですか。

◇小野委員

プログラミング教育というのは非常に重要であることは、いろいろ読んで理解できてはいますが、私自身、プログラミング教育を受けていません。先ほどの説明でプログラミング教育についてホームページの作成のことが出ましたが、プログラミングとこのホームページの作成が、頭の中で繋がらない。そこからいえることは、教える側のプログラミングに対する認識をもう少し高

めていく必要があるではないかと。それが、教育委員会が持つ役割ではないかと感じました。

◆市長
ありがとうございます。
教員のスキルということについて、事務方から何かありますか。

○教育委員会説明員（学校教育課）
今年度のプログラミングの推進については、4月から8月にかけて4回、中学校の教員を対象に、市が主催して研修を実施したところです。
最初は、技術課の指導に当たる教員、そしてその後は学校の研究主任とその役割に近い教員が参加する研修を進めてきて、そこに小学校の教員も入り、研修を広げているところです。
さらに、来週1月26日になりますが、ＩＣＴやプログラミング教育において、中央教育審議会臨時委員や、全国市町村、市町村職員研修所で講師を務められている有識者から、今後についてご示唆いただくとともに、次年度に向け、振り返りを進めているところです。
これらの研修を通して、子どもたちにプログラミングやプログラミング的思考の重要性を教える技術の獲得や向上が図られてきているものと捉えております。

◆市長
このプログラミング教育は共通テストの科目にもなり、社会的なニーズも今後一層高まっていくということを考えますと、プログラミング教育のカリキュラムなどを早期に確立するということが求められていると思います。
試行錯誤を繰り返すことになると思いますが、国や他の市町の動向を見ながら、できるだけ早く指導方法を確立できるようにお願いしたいと思います。
では、次に、今後のデジタルの活用について協議させていただきたいと思います。
第3回デジタル行財政改革会議の文部科学省資料を、再度お示しいただきたいと思います。

⇒＜提示＞令和5年12月20日デジタル行財政改革会議(第3回)(文部科学省)

教育のＤＸに関わるＫＰＩの方向性が数多く示されていますが、三原市は教育情報誌での学校情報化ランキングで、小学校が中国地方で第1位と高く評価をいただいております。
教育委員の皆さん、お伺いしたいと思いますが、これらのＫＰＩの中で、気になるもの、または重要であると思われることを、挙げていただきたいと思います。
まずは、京楽委員さんからお願いいたします。

◇京楽委員
まず、不登校児童生徒が増加傾向の現状の中で、不登校が長期化すると学意欲が失われてきますので、「学びを止めない」ということで、早めのオンライン授業配信の実施を、希望する生徒には必要ではないかと思います。
また、日本語を十分に理解できない外国人児童生徒の支援に、ＩＣＴの翻

訳ツールとか平仮名、片仮名アプリを使用することで、学習面、精神面での問題が少なくなると思います。
ただ、ＩＣＴを使った教育相談だけではなくて、オンラインのカウンセリングも活用できればと思います。

◆市長
ありがとうございます。
続いて、小野委員さん、お願いします。

◇小野委員
このＫＰＩには、障害のある児童生徒や病気療養児に対してそれを活用するというのがありますが、今回、コロナウイルス感染拡大のことがあって、遠隔での授業に対する壁がほとんどなくなってきたような感じがします。
そうすると、少し視覚的に障害があったとしても、字を大きくすることも簡単になり、耳に少し難聴傾向がある子どもでも、イヤホンを使うと有用な講義を受けることができるということになると思うので、非常に重要な教育ツールとして利用できると思います。

◆市長
ありがとうございます。
続いて、田原委員さん、お願いします。

◇田原委員
私は、クラウド環境を活用したＤＸを徹底する、ＦＡＸでのやりとりや押印を廃止する、不合理な手入力作業を一掃する、この3つを進めることで、ペーパーレス化が進み、手入力でのケアレスミスなど減少し、そして、三原市でスグールというとても素晴らしいアプリがありますが、それを活用することでアンケートや欠席、遅刻などの連絡、配布物などがデジタル化したことにより、時間や場所など気にせず活用できることは、保護者の立場としてとてもありがたく感じております。

◆市長
ありがとうございます。
続いて、高橋委員さん、お願いします。

◇高橋委員
ＫＰＩの中で気になる点として、3つほど思いました。
1つ目は、当該年度に、おけるＩＣＴ研修を受講する教員の割合が、令和4年で73%、2つ目として、授業にＩＣＴを活用して指導する能力が、令和4年で78.1%。3つ目として、デジタル教科書を実践的に活用している学校の例が、令和4年で40.5%にとどまっているということです。
先ほどのプログラミング教育のところで申し上げましたが、子供たちに、論理的思考力を身につけさせるためにも、まず教師がＩＣＴ研修を受け、ＩＣＴ活用の指導能力を高め、デジタル教科書を用いながら、計画的に取り組むことが一層求められるというふうに考えております。

◆市長
ありがとうございます。

一定の環境整備はできたと思っておりますが、これを今後どのように活用していくかということが、とても大事なことだと思います。
教育長さん、今委員の皆様からお越しご指摘いただいたことはですね、いずれも大切なことだと思いますが、いかがでしょうか。

◆教育長
はい。大変貴重な指摘いただき、子どもたちの学びのために大切な事項ばかりを指摘していただいたと思います。
これを踏まえまして、先ほど学校教育課長が説明した中でも出てきましたが、中央教育審議会臨時委員を務められている有識者が、全国市町村協職員研修で講義をされたことを言いましたけども、これに教育委員会の職員が参加しております。
その際に、令和４年度に全国学力学習状況調査の教科も一部ご紹介があったと聞いております。実際その問題を見ていただこうと思いますので、資料17の、令和４年度、中学校３年生の国語、中国の５ページ・６ページをご覧ください。

⇒＜提示＞Ｒ４全国学力中３国語

２．スマート農業に関する問題が出ていて、アンダーラインを引いたりして、右側にコメントを引くようになっております。
この設問のコメントに吹き出しのようなものが出ていますが、これはチャット機能のことを示しており、これらを日常的に利用していないと、なぜこのような表示になっているのか理解できないとのことだったようです。
この設問を私が見ても、スマート農業であるとか、ＡＩであるとか、IoTというような理解がないと、何のことか理解が難しいかもしれません。
令和５年の今では、ＣｈａｔＧＰＴとかＡＩなど、よく聞くワードですが、もう約２年近く前の令和４年では、これを本当にちゃんと理解していたのかなと思います。
その上で、あえてこの学力状況調査の基本理念をご紹介いたしますと、全国学力学習状況調査の調査問題については、新しい学習指導要領が求める育成を目指す資質能力を踏まえ、それを教育委員会学校に対して具体的なメッセージとして示すものになるよう検討を進めるという趣旨だとされております。
このようなＩＣＴ環境が前提となっている設問形式は、令和５年とも続きました。今後も避けて通れないものだと認識しております。
そうであるならば、今後修正が加わるかもしれませんが、第３回デジタル行財政改革会議の資料を念頭に、子どもたちの学びを一歩ずつ前に進めていきたいと考えております。
以上です。

◆市長
力強いお言葉ありがとうございました。
引き続き、学力の定着、ＧＩＧＡスクールの推進については、研究を進めていただいて、子供たちが三原市での教育を通して、変化の激しい時代においても、必要な資質能力を身につけて、将来三原で活躍をして、或いは世界で活躍していけるような人材育成に、つなげていただきたいと思います。
本日の会議も熱心なご意見をいただきまして誠にありがとうございました。

かなり内容を深掘りすることができ、有意義な会議になっていると思っております。

ありがとうございました。

この会議中の資料で、一部児童生徒の名前が開示された状態になっていたものがございました。個人情報の取扱いについては、ご本人に不当な不利益を与えることがないよう細心の注意を払わなければなりません。

事務局は今後このようなことがないように、資料のチェックを、厳重に実施していただきたいと思います。それでは、次回の会議は、新年度なるべく早い時期に、調整事項に係るご協議をいただくことをします。

詳細につきましては事務局で精査の上、事前に忠実通知させていただきますので、よろしくお願いいたします。　他に何かございますか。

（　「なし」の声　）

それでは、これをもちまして第３回総合教育会議を閉会いたします。本日は、ありがとうございました。

11:15 終了